

悔い改めない者たち

ヨハネの黙示録九章1-21節

これらの災いに遭っても殺されずに生き残った人々は、……
悔い改めず、なおも、悪霊や、金、銀、銅、石、木で造った、
……偶像を拜むことをやめなかった。(20)

第五、六のラツパが吹かれました。ラツパの音とともに終末に人間に降りかかる災いが幻のうちに語られます。このとき、その額に神の印を押された者は災いを免れます。そして、第六のラツパが吹かれると、四人の天使が現れ、三分の一の人々を殺します。幸いにも殺されずに生き残った人々は、それでもなお「悔い改めず、……偶像を拜むことをやめなかった」と記されています。ここにヨハネの涙と叫びがあります。自分たちは神の印が押されているからそれで良いというのではなく、滅びに向かいながら決して悔い改めようとしなない同時代の人々に、「手遅れになる前に、今からでも悔い改めてほしい。額に神の印を押された者となつてほしい」と訴えているのです。このヨハネの悲しみと切なる祈りが、私たち自身の悲しみと祈りになりますように。